



# 陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2024年1-3月号

Vol.64

## 支援者の皆様へ 大切なお知らせ

支援者の皆様、いつもお祈り、ご支援を心より感謝いたします。

昨秋にある出来事があり、悔い改めと内省の期間を経て、続く様々な出会いにより「新しい召し」を神から与えられた、と前号のレターに書きました。その「新しい召し」について支援者の皆様にお知らせするにあたり、どのようにお伝えするのが良いのか本当に悩みましたが、支援者の皆様は共に神の為に働く同労者であり「家族」のようなものですので、そのままお伝えすることにしました。単刀直入に言いますと、私が新しく神様からいただいた召しとは「**性的少数者の方々と共に生きるという召し**」です。

今のような形での宣教の働きに身を投じた15年前、福音主義の教会で洗礼を受けた私は、明示的に教えられたことはなくても当然信じるべき真理かのように「聖書は同性愛を断罪している」と考えていました。しかしながら今は、神は同性愛を断罪しておらず、性の多様性を喜んでいらっしゃると思っています。これは深い信仰の確信から来るもので、「最近が多様性とかジェンダーフリーとか、そういう時代だよ」という類いの世論への同調や迎合とは違います。この問題について考え始める「きっかけ」となる明確な出来事があったわけではないのですが、「これは真剣に学ばなければならない」という直観のようなものに導かれ、この6年ほど、同性愛についての数多の神学書／専門書を読んできました。まず、イエス・キリストは同性愛について何も発言しておられません。聖書が同性愛について言及しているとされる旧約聖書およびパウロ書簡の数カ所が「争点」になりますが、擁護派も否定派も説得力があり学ぶ点が多くあります（『キリスト教は同性愛を受け入れられるか』新教出版社等を参照）。また、福音派の牧師や神学者にも「聖書は同性愛を断罪している」と考える方も「神は同性愛を断罪しておらず、性の多様性をありのままに受け入れ喜んでいらっしゃる」と考える方も、両方おられることを知りました。家父長的価値観や異性愛主義が長らく支配的だった歴史の中で同性愛（および「劣位の性」としての女性）がどのように扱われてきたのかというジェンダーにまつわる歴史／神学／社会学／政治学の視座を学び、マイノリティ当事者の語りや映像作品にも触れました。

加えて私は獣医師でもありますので、遺伝学、内分泌学、発生学、解剖学などの基礎知識を背景に、ある人のセクシュアリティを決定するのが性染色体と外部生殖器の「二型性」だけでないという生物学的現実も知っています。脳の視床下部や性ホルモン、発生時の胎内環境などが複雑に関与し、「性グラデーション」と言われる多様性が生まれます。性指向・性自認が非定型（多数派と違う）を示す個体があ

らゆる動物種で観察される現実を踏まえるとき、WHO が 1992 年にした「同性愛はいかなる意味においても治療の対象とはならない」という宣言が十分な根拠に基づくものだとすることがよく理解できます。むしろ「人間には男と女しかいないと聖書に書いているのだから、同性愛は不自然な状態であり治療すべき、あるいは悔い改めるべきだ」とする立場には科学的根拠がなく、むしろ神が造られたままの「自然」を否定する態度のように思えてなりません。

調査方法によって大きな幅はあるものの、概ね 9 割前後の人は私と同じシス（出生時の性と自認する性が同じ）／ヘテロ（性指向が異性に向く）です。LGBTQ+ というのは非定型を示す方々で、割合でいえば学校のクラスに一人ぐらいはいると言われます。「最近そういう人が増えた」というのは誤解で、以前は差別や偏見の恐れがあるのでカミングアウトできないためやむなくシス／ヘテロを装って社会生活を営み、「いないことにされてきた」人々が、徐々にカミングアウトしやすくなってきた、という社会の変化の結果に過ぎません。それでも日本の場合、**職場で一人にでもカミングアウトしている LGBTQ+ 当事者の割合は 5~8%**と低いままです（厚生労働省の職場実態調査、トランスの場合のみ 15.8%）。

私自身はシス／ヘテロのいわゆる定型ですから、「なぜ当事者でもないあなたがこの問題に首を突っ込むのか」と、LGBTQ+ に対する偏見がない方からも聞かれることがあります。そのことについて考えるとき、やはり 2013 年秋から 2 年間、燃え尽きと鬱病を患ったことが深く関係していると思えます。かつて出来ていたことが一つずつ出来なくなり、ついには近所のコンビニに行くことすら動悸と震えで出来なくなったとき、自分が障害者のように感じました。そして、障害者の方々からは世界はこんな風に見えるのか、と思った時、障害を持つ方々への畏敬の念を抱きました。そのとき「**社会というのは健康なマジョリティに最適化されていて、障害を持っていたりマイノリティだったりする人々には時に、社会は暴力として感知される**」という真実に接したように思います。鬱は私にとって「天啓」でした。その経験をきっかけに、障害児医療の分野で活躍する友人との会話や「べてるの家」の見学などを通し、「弱者やマイノリティの視点から社会を考える」という分野の知見を広げていきました。ピエール・ブルデューという社会学者が「排除された者の明晰さ」と呼んでいます。構造的に社会の辺縁に置かれることでしか見えない風景があるのだと知りました。それがイエス・キリストの「**貧しい者は幸いです／悲しむ者は幸いです**」という山上の垂訓の教えと合致することを、北森嘉三の『神の痛みの神学』や、解放の神学／フェミニズム神学の著作群などを通して確信するようになっていきました。

2010 年に発足した FVI 「声なき者の友」の輪は、「**辺縁化され、抑圧された存在の友となることこそ、イエス・キリストの友となることに他ならない**」という確信と召命の共有から名付けられました（マタイ 25:40）。ですから私のこの「性的少数者の方々と共に生きる」という召しは、FVI の理念と合致することを執行役員の神田師、柳沢氏とも確認し合い、FVI のカタリストとしてこの分野の召しに生きることを応援してもらっています。FVI は同時に、その働きの多様性も大切にしていますから、カタリストや役員の先生方がすべて LGBTQ+ に関して私と同じ意見を持っているわけではなく、私の見解が FVI の公式・共通見解ではない、ということも付言しておきます。

先ほど福音主義の教会にも様々な立場があると申しましたが、昨年 9 月に分科会開催のために参加した日本伝道会議（JCE7）の宣言文『「おわり」から「はじめる」私たちの祈り』の「2」の第 4 項目にはこのような祈りが盛り込まれています。「**性的少数者、外国人、路上生活者、重い病や心や体の障害を持った方など、偏見や差別、無理解に苦しんでいる方々が教会にもいます。そのうめきや葛藤に耳を傾け、互いの弱さを担い合うことで、私たちをキリストの力がおおう教会としてください**」

性的少数者の方々の「アライ（当事者ではないけれど LGBT の人たちの活動を支持・支援する人）」として歩み、活動し、発信するという私の「新しい召し」は、JCE7 のこの祈りの実践です。昨秋から不思議

議な形でクリスチャンのLGBT当事者の方々との出会いが与えられ、「同性愛を断罪する教会」によって傷ついてきた話を伺うようになりました。当事者として教会に向けて発言している方、居場所を提供しようとしている方、福音主義の牧師や神学校教師でありながら勇気をもって「アライ」の立場を表明している方、このような方々と連帯しつつ、神学的対話を進め、日本の教会がLGBTQ+をそのまま受け入れているという「福音の豊かさ」に気づけるよう私は発言していきます。

いや、LGBTを「治す」ことこそが本当の寄り添いだ、と考える立場があることも存じています。もしこれを読んでいるあなたがそのような立場と確信を持っておられるなら、どうぞその確信を大切になさってください。また、この文章を読んだ上で、「あなたにはがっかりした」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。「あなたが福音を棄てるとは思いませんでした」と言われたこともありますから、その気持ちもよく分かります。「そうではないんですよ、むしろ福音のさらなる豊かさに気付いたのです」と言いたいですが、なかなかそうは思えない気持ちを正直に分かち合ってくださいる方もいます。時間はかかるかもしれませんが、お互いが互いの違いを尊重しながら、多様性を喜ぶ包摂的な教会の姿を私は夢見て活動していきたいと思えます。

以上、きわめて個人的で一身上の出来事に関する長文を読んでもくださりありがとうございました。

さて、支援者の皆様におかれましては、この文章を読んだ結果、以下のような応答の可能性があるかと思っています。尚、どのような応答だったとしても、今後も是非交わりを続けていきたいですし、私が苦々しく思ったりすることは一切ありませんのでご安心ください。

1. 陣内の考え方に共鳴するし「新しい召し」も是非応援したいので支援を継続していきたい
2. LGBTQ+に関する神学的理解は陣内とは違う、またはこれまで関心を寄せていなかったもので単純に「分からない」が、陣内のその他の活動については賛同しているので支援を続けたい
3. LGBTQ+に関する神学的理解が相容れないので、支援は差し止めたい
4. 上記とは関係なく、個人的な事情や環境の変化などの事由で、支援は差し止めたい

お忙しい中大変お手数をかけて恐縮なのですが、同封の返信はがきに皆様のご意志を記入して返送していただけないでしょうか。返信がない方におかれましては、今後のレター送付を差し控えさせていただきます（再開したいという時はいつでも仰ってください。PDFでお読みの方は返信不要ですが、以後はレターをメールで送らないでほしいという方のみお知らせくださいますれば幸いです）。

尚、今回のレターは「性的少数者の方々と共に生きるという召し」について特に重点的に書きましたが、私は「包括的宣教の推進」というこれまでしてきた働きも継続していきますし、今後の私の働きやレターの内容のすべてがこの話題一色になるということもありません。これまでしてきた働きにもこれまでも増して邁進していきますが、それは二つの違う働きをしていくというのではなく、「神の福音の包括性」や「辺縁化された方、抑圧された少数者と共に生きる」という点において私のなかでつながっており「ひとつの働き」です。繊細な話題でもあり、様々な考え方・立場の方がいらっしゃるでしょうから、このような長いレターで皆様のお考えを聞かせていただくという形を取りましたが、「踏み絵」のような圧迫感をどうか感じないで欲しいと願っています。今後も皆様とともに神の働きに参加していきたいですし、立場は違っても、いや立場が違うからこそお互いに学び合えるとも思っていますので、今後ともご指導やお交わりを賜れましたら幸いです。

皆様のご支援に重ねて感謝しつつ。

#### 補足1：用語説明と、さらなる説明の求めへの対応

- ・LGBTQ+：レズビアン／ゲイ／バイセクシュアル／トランスジェンダー／クイア（クエスチョニング）／その他、の略。性的少数者の総称として用いられる
  - ・ジェンダー：生物学的な性とは違い、社会的・文化的につくられる性のこと
  - ・セクシュアリティ：生物学的な性、精神的な性、性的指向、性表現など性に関連する様々な要素を含む実存的な概念
  - ・シスジェンダー（シス）：生物学的な性と性自認や性表現が一致している人の総称
  - ・トランスジェンダー（トランス）：生物学的な性と性自認や性表現が一致していない人の総称
  - ・ヘテロセクシュアル（ヘテロ）：異性に恋愛感情・性的感情を抱くセクシュアリティ
  - ・ホモセクシュアル（ゲイ／レズビアン）：同性に恋愛感情・性的感情を抱くセクシュアリティ
  - ・カミングアウト：性的少数者が自身の性的指向や性自認等のセクシュアリティを他人に表明すること
  - ・アウトティング：人の性指向・性自認を、本人の了承を得ずに他人に暴露すること。2020年から法律でパワハラ行為とされた。
  - ・アライ：ストレートアライとも言う。性指向・性自認はLGBTQ+ではないが、性的少数者と連帯し支援する人のこと
- ★「聖書が同性愛を断罪していないというのはどういうことか？」という疑問にお答えするのは紙面の都合上できませんでしたが、神学的議論に関して膨大な情報を提示する用意がありますので、個人的に疑問だから知りたいという方は直接ご連絡くださいましたら個別に対応いたします。 連絡先：Email:shun@karashi.net

#### 補足2：教職者／教会事務担当の方へ

- ・本プレイヤーレターの内容が、御教会において掲示するに相応しくない、あるいは不快に思われる方がいる可能性があるという場合、ご遠慮なく掲載を差し控えたり、教会員の方の目の触れないようにするなどなさってください。私への断りは不要です。

## 祈りの課題

- ◇俊・純子・かなえ・ななみの体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇翻訳した本『もしイエス様が市長だったら』が多くの人に届けられ、読んでいただけるように。
- ◇「陣内俊を支える会」やFVIの会計が満たされ、働きが継続できるように。
- ◇私に与えられた新しい召しを通して、神が日本の教会を益し、成熟へと導いてくださるように。

## ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座  
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」  
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

- \*振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- \*振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- \*Prayer Letterの購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。